

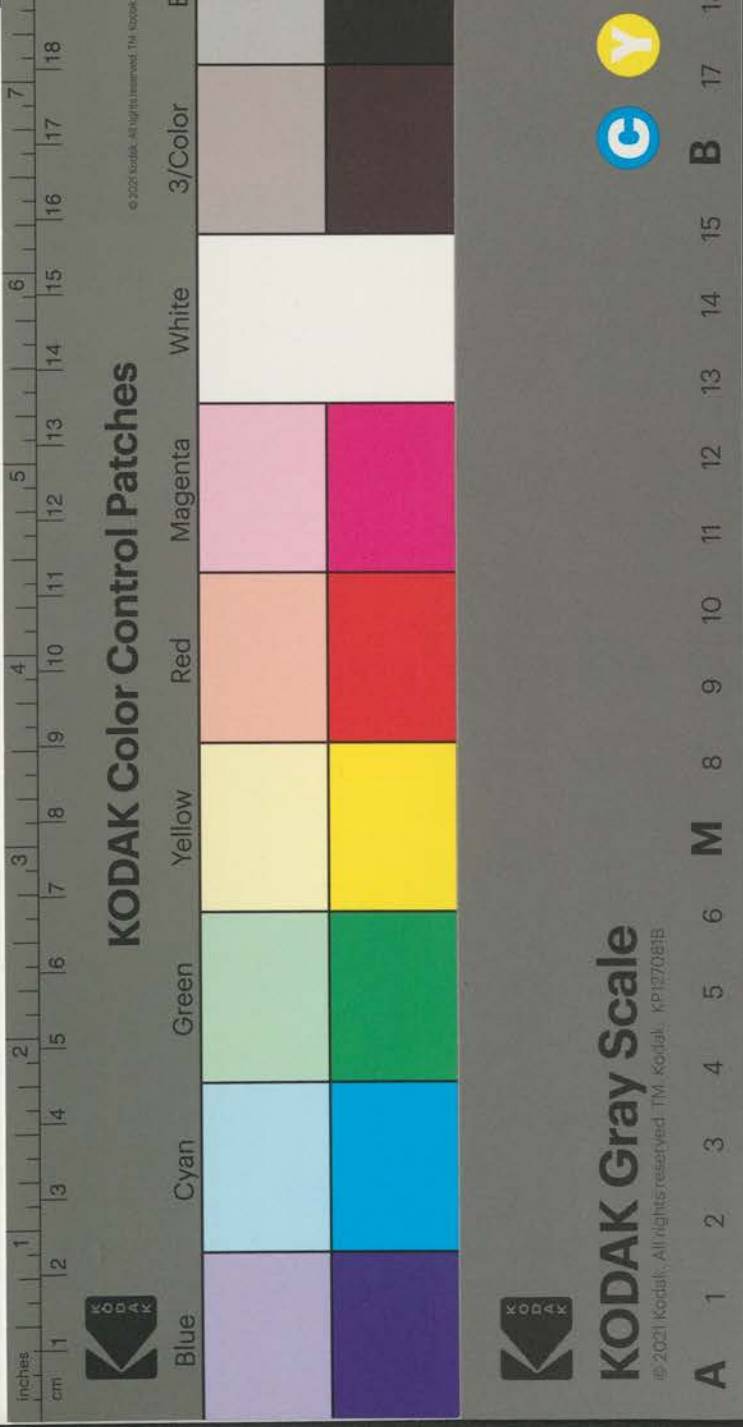
埼 玉 縣

採種圃の經營

農務要報第四號
大正十五年三月

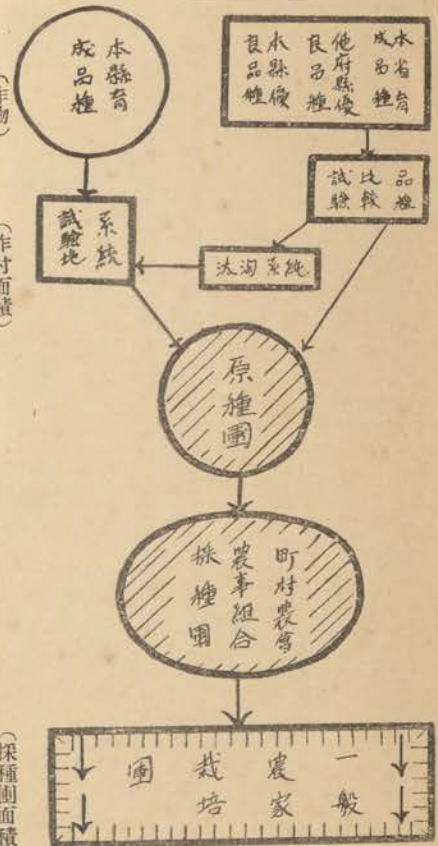


田島源三氏藏



埼玉縣採種圃

組織



計劃

備考

現在麥作付面積ハ大麥五割九分小麥三割九分裸麥二分ナルモ小麥大麥各四割八分迄ニセントス。

(作物)		(作付面積)		(採種圃面積)	
水	稻	全作付六七一七五〇町	三ヶ年更新 原種ニヨッテ七割	原種系	三、五
陸	稻	九、五一、一	同原種七割	其他	五、七
大	麥	三、四、〇〇七、五	同原種八割	其他	三、四、二
小	麥	三、四、〇〇七、五	同原種八割	其他	四、六
裸	麥	一、八〇〇、〇	同原種八割	其他	九、五
大	豆	三、九、六、三	當分	其他	三、五
甘	藷	三、五、七、〇	當分	其他	三、〇

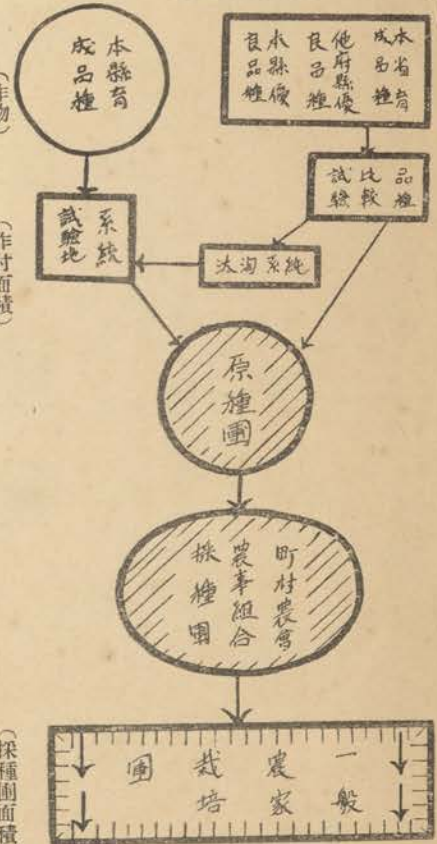
農産物の改良增收の最も必要なるは今更申す迄もない然も最も適確にして効果の大なるは採種圃の設置に依る優良品種の普及である 本冊子は之が必要と採種圃の經營上の注意の梗概を叙して品種改良の實績の愈々顯著なるを望むものである。

大正十五年三月

埼玉縣内務部

埼玉縣採種圃

組織



計割

備考

現在麥作付面積ハ大麥五割九分小麥三割九分裸麥二分ナルモ小麥大麥各四割八分迄ニセントス。

(作物)		(作付面積)		(採種圃面積)	
水	稻	全作付七、七五〇町	三ヶ年更新 原種ニヨリテ七割	原種系	三三、五
陸	稻	九、七五、一	同原種七割	其他	五、六、七
大	麥	四、〇〇七、五	同原種八割	其他	四、六、二
小	麥	四、〇〇七、五	同原種八割	其他	九、五
裸	麥	一、〇〇〇、〇	同原種八割	其他	三、五
大豆		三、九六、三	當分	其他	三、〇
甘藷		三、五七、〇	當分	其他	五、〇

正誤表

頁	行	正	誤
一一	一	百三十二町五反	百二十二町五反
同	二	三十四町二反	十町三反
一四	一一	採種圃面積	採種圃面積面積
一七	一三	便宜	便宜
一九	一四	記帳	主張

の經營上の注意の根柢を斜して品種改良の實績の愈々顯著なるを望むものである。

大正十五年三月

埼玉縣内務部

目次

第一、品種改良の要	一
第二、品種改良の方法	四
(一)純系淘汰法(二)人工交配(三)變種の利用	四
第三、品種改良の効果	六
第四、採種圃設置の必要	七
第五、採種圃の組織	八
第六、本縣優良品種普及計劃	一〇
縣原種の特性表	一一
第七、實行組合採種の効果(農事組合採種)	一二
第八、採種圃經營法	一三
經營(平等分擔、委託、共同)品種	一四

面積、生産種子の分配、経費及普及方法	一五
第九、採種圃擔當上の注意(耕種法)	二〇
第十、採種圃の監督	三七
第十一、原種の耕種標準	三七
附 採種圃補助規程	三七
○埼玉縣立農事試験場種苗配付規程	六〇
○同 品種改良協議員會規程	六三

第一、品種改良の要

農村問題の盛に論議考究さるゝに連れ一般社會に於て著しく農業の注目さるゝに至つたのは喜しき現象と思ふ従つて之が改善策として農業經營法の改善、農業組織の複雑化等の論が朝野を通して唱へらるゝに至つて當事者たる農家も從來の一般組織なる主穀式に代へるに副業園藝山林等各種の事業を混和せしめて農業收益の増進を圖る傾向になつて殆ど舊來の米麥作に熱中するものは時代遅れの様に見らるゝの傾向があるが是れは最も戒むべき事である何故なれば今日も尙米麥作は一般農業の根幹であつて之をして粗放的に或は殆ど放擲して他に適當なる作物を得るは困難なる故である尙米麥作の豐年にありては穀價下落を來たし折角多大の生産費を要して收穫せる農産物は凶年に比して賣上高に差異を認めざるの誤謬を堅く守り窮迫せる農家の經濟の緩和は相互の粗放農業、生産制限に依つて緩和さるゝ様に言ふ人があるが斯様なことは農産物の如く世界到處に生産せられ生産者たる農業者は擴くて多數存すに鑑み之の事の困難なるは往時の米投賣防止に依つても明瞭なことである。

以上は唯例に過ぎないが國民生活の向上人口の増加を考へ更に我が國の食糧需給の現状より見る時は少くも食糧農産物に對しては決して安閑として居られない益々食糧の改良増殖を圖るの要は何人も首肯する所である。

扱て食糧の總ては農産物にして就中米麥増殖は刻下の急務である勿論之には多種多樣の方法

があるが要件として。

第一、生産費を増加せずして收穫を増加し収益の増進を圖る事、

生産費に構はない増収は國家の食糧問題としては偉大な貢獻をなすが農家の經濟をして愈々窮迫せしむる從つて収益増進を目的とする農家としては勢ひ生産費の制限を要する。

第二、勞力の節約である、人の勞力は益々不廉になる現代に於ては畜力動力等の利用に依つて出来る丈節約すべきである、更に得たる餘剩勞力を生み出して副業の獎勵をなす如きは最も現代的である。

第三、資本の増加、從來の日本の農業は勞力的には大變集約的であつたが資本的には極めて粗放であつた、從つて肥料の使用高等に於て或は家畜の飼養等に於て一層増加の要がある。

第四、作物の品種の改良である、

作物品種は夥しき數を占めて居り且つ自然に雜駁になつて居るので之をして吾人の要求に添ふ様な品種を育成して一般に普及せしむるならば其の利益は莫大なるものである、即從來の生産費を以て一層品質の良い收量の多いものが容易に得らるゝは實に品種改良に依るを以て最も捷徑とするのである故に農商務省(今の農林省)では早くより中央及地方の農事試験場をして米麥品種改良をなさしめ優良品種の育成を企て普及獎勵に多大の努力を致して居る。

本縣の狀況に於ては農産額は逐年増加し、其生産は米麥各百拾萬石を産し、大豆、十五萬石、甘藷、三百五十萬貫にして實に總額一億二千有餘萬圓の大部分を占むる最も重要な作物である、之に對しては從來各種の方法にて改良發達に全力を傾注せるも尙水稻反收一石六斗、大麥二石餘といふ僅少なるものにして今後大いに増收の要がある更に品種の數徒に多き時は自然農産物品種整一を欠き取引上の不便栽培法改善上不便不勘に不拘本縣の如きは其數の多大なるに驚く即ち大正十一年に水稻品種分布調査を全縣の農家につき行つたのに水稻梗千三百四十二種糯五百六十一種の多きに及び之が爲に知らず一蒙れる農家の損害の多きは想像に餘りあるのである、之に對しては本縣に最も適應せる良品種の普及を最も緊急に認め本縣農事試験場は夙に之が改良に着手して現在では水稻、陸稻、大小裸麥、大豆、甘藷につき各々縣原種を作成して擴く市町村採種圃に其種子を無償交付して農家諸君の之が利用の盛になるを期待して居る。

農事改發は獨り品種改良に止らざるが縣下十六萬戸の農家悉く覺醒されて始めて徹底實績揚るものにして之が爲には官民一致して幾多の舊慣の打破を要し縣原種の採種圃栽培をして益々多からしめ埼玉縣農家として縣原種以外の品種を栽培するものなからしむる様致すは最も農家自身の利益である。

更に三つの點に於て兩親が異なるに八種、五つの點の時は三十二種といふ様に分離して其の中には吾人の望む形質を具へた固定的のものが生れる。

(三)、變種の利用、突然著しい變りものが出来て然も其形質が全く固定することがある此の變化を突然變異の大なる原因になつて居つて實用價値の少いものであるが中には優良なるものゝ出現することもあるの之が利用も又大切である。

以上の大體三方法に於て品種の改良は行はるゝが實際に於ては遺傳現象なるものは中々複雑でもあり生じたる澤山の新品種の調査鑑別等の勞作は一通りのものでなく専門の技術家に依て特殊な設備のもとに於て始めて完全さるゝものである。

第三、品種改良の効果

以上述べたる多大の犠牲のもとに撰出さるゝ新品種の在來種に比し優秀なるは贅言を要せざる所にして現在縣に於て擴く普及獎勵中なる縣原種は斯くして生れたものである、今其成績の一、二を掲げるに收量の差に於て。

水稻	關取十五號(原種)	反當收量	二、六七六 ^市	在來關取	二、五六〇 ^市
	保村八號(同)	同	二、八一四	在來愛國	二、三九一
	武藏(同)	同	二、九九九	關取	二、四五五
大麥	關取埼一號(同)	同	三、八一四	在來關取	三、六三四

小麥 白達摩埼一號(同) 同

二、七五八 在來白達摩 二、四四二

品種改良は獨り收量の品質に於て從來のものに比し優れるのみならず、之が栽培するに當つての欠陥たる草丈、稈の強弱、熟期、病性勞力關係等に於て著しく改善され春蠶と衝突せる品種も之が種類又は品種に依りて緩和さるゝ等多大の利益がある。

更に之が縣下擴く普及され數種のものに統一さるゝ曉は多量の農產物と品質の一定を得て販賣上大量取引に依る利益を重愛すると共に斯く數品種に依り品種毎に最も適合せる栽培法は考究普及を見て栽培法の改善生産費の節約を企てられ延いては農業組織として益々合理的經濟的にならしむるに甚大の効力あるものである。

第四、採種圃設置の必要

米麥其他主要農作物の增收を圖るには前にも述べた通り種々の方法があるが優良なる品種及種子を用ふる事は最も効果が甚だ大きいのである、之が爲には次の條件を具備した種子を用ひるを要す、即地方の氣候風土に適したると共に良い純系にして種實充實せる強健なることである。

故に品種改良の結果右の如き優秀なる品種が見出された、際は之の品種をして常に系統の純粹を保つ強健なる種子を以て一般に普及栽培せしめる事は最も必要である、之が爲には細心の注意合理的の栽培に依つて原種を増殖する故に採種圃の必要を感じる。

採種圃の經營は積極的に優良種子の普及に必要なのみならず、品種の退化を防止する故甚だ必要である。最初によかつた品種も數年ならずして漸次收量を減するが、品質が悪くなるか病虫害に罹り易くなるか、其他種々の形質が漸次惡化するか所謂品種の退化、或は劣變は常に一般農家の認むる所であつて之を防止するには細心の注意を拂ふ要がある今品種退化の主なる原因を探索し見るに。

一、異品種の混入すること。

播種移植、收穫調製種子豫措、施肥其他色々の作業中知らず識らずの間に他の品種とか悪い系統の種子が器械的に混入すること。

二、自然雜種すること。

自然雜種の結果悪い系統が混入雜種すること。

三、突然變異に依り起ること。

栽培中突然變異が起り劣變種の混入を起すこと。

大體右の様な原因に注意して採種を行ふことは特に必要である之が爲には年々採種圃を設け常に原種の供給を受けて更新するの要がある。

第五 採種圃の組織

現在我が國に於ける採種圃の組織は多種多様なれど之を大別すれば次の諸式に區別するを得

る。

一次式 原種は町村、町村農會其他實行團體採種圃に於ても栽培増殖され翌年農家の種子となる組織。

二次式 原種は縣縣農會郡農會等の採種圃に於て栽培増殖され更に其の生産種子は町村、

町村農會其他實行團體採種圃にて更に複製し第三年目に農家の種子となる組織。

三次式 前記第二次町村、町村農會其他實行團體採種圃生産種子を以て翌年農家の自家採種圃にて更に増殖して第四年目に農家の種子となる組織。

以上の各式に依り農家の栽培用種子を毎年採種圃より全作付面積の供給を受けるを毎年（各年々）更新、二年即隔年毎に受くるを二年更新、三年目を三年更新と稱し素より原種をして三成く早く農家栽培用種子に供給するは品種の混變種を防ぎ理想的にして所謂一次式毎年更新を以て最善の方法となすのである、然れども此の方法に従ふ時は原種圃及採種圃の面積は著しく大面積を要し従つて費用も莫大である然れども周到にして合理的なる方法に依つて採種圃經營せらるる時は三—四年位は種子の大なる混種は見ないので大體一次式三年更新位を最も適當なる方法と考へ本縣の如きは既に大正九年以來此方法を講じて居る。

尙更新方法も毎年農家に供給する採種圃を設立し其の三分の一宛毎年原種を配布するのと全面積の三分の一に應ずる採種圃を作つて配給先を三ヶ年一回にするのとあり本縣は後者たる面積基準の三ヶ年更新である。

第六、 本縣優良品種普及計劃

本縣水稻作付面積は六萬七千町、陸稻九千七百町、麥六萬六千町歩、大豆二萬町、甘藷壹萬參千町であるが之に對して本縣獎勵品種(即縣原種)を以て水稻、陸稻七割、麥八割大豆、甘藷は原種の許す限り普及し其の残りの面積に對しては地方特有在來種の改良に依つて採種圃よりの種子を普及せしめ更に之が更新は三ヶ年更新を以てするのである。

縣優良品種普及計劃 (縣原種及其の他の優良品種)

		採種圃		採種圃	
		面積	生産種子量	面積	生産種子量
水	稻	一八、九二〇	六、七二七、五	二、九二〇、三	三、三〇〇、〇
陸	稻	四、八八〇	九七、五	三、二五〇、〇	一、一〇〇、〇
大	麥	一四、〇〇〇	三、四三二、〇	一、四三六、〇	一〇〇、〇
小	麥	一四、〇〇〇	二、二八七、〇	一、四三六、〇	一〇〇、〇
裸	麥	三、七〇〇	七三、〇	三、七〇〇	七三、〇

然して右の中縣原種を以て更新する爲に要する採種圃面積は左如し

品名	面積	生産種子量	採種圃面積	採種圃生産種子量
水稲	一八、九二〇	六、七二七、五	二、九二〇、三	三、三〇〇、〇
陸稻	四、八八〇	九七、五	三、二五〇、〇	一、一〇〇、〇
大麥	一四、〇〇〇	三、四三二、〇	一、四三六、〇	一〇〇、〇
小麥	一四、〇〇〇	二、二八七、〇	一、四三六、〇	一〇〇、〇
裸麥	三、七〇〇	七三、〇	三、七〇〇	七三、〇

(農事試驗場查調)

B		麥											子											實	倒伏難易
項	目	出穗期	成熟期	草丈	莖數	稈細太	葉色	穗				子				實				一升重	一升粒數	倒伏難易			
								長	小穗數	型	脫粒易	千粒重	色	內容	品質	反當	收量								
大麥	關一	取號	月日	尺	本	中	濃	尺	個	密六條	中	40.65	白	•	上下	石	312	30667	強						
	崎虎	尾號	5.02	6.05	3.25	54.0	中	濃	1.81	28.4	密六條	中	37.09	白	•	中中	4.148	285	34773	中					
	崎一	德號	4.26	6.03	3.28	62.8	中	中	2.33	29.6	密六條	中	45.37	白	•	中上	3.843	281	30333	中					
	二崎	生號	4.29	6.08	2.91	55.0	中太	濃	1.86	29.0	密六條	中	37.00	淡青	•	中上	4.230	298	29900	強					
裸麥	前早	四號	4.22	6.02	2.91	61.8	太	濃	2.17	28.6	六條	中	39.68	白	•	上下	2.806	370	32330	中					
小麥	赤達	摩號	4.30	6.13	2.72	64.3	中	濃	3.44	17.1	錐狀	稍易	36.92	赤	粉狀	中中	2.328	352	37752	強					
	崎一	生號	5.01	6.14	3.03	78.0	太	濃	2.64	17.5	軍配狀	中	35.78	赤	粉狀	上下	2.191	361	37700	強					
	尾崎	摩號	4.29	6.12	2.22	60.3	細	中	2.85	17.9	錐狀	稍易	30.49	赤	半粉狀	中中	2.190	370	47331	強					

大豆

備考

1. 本表ハ最近三ヶ年平均ナリ
但シ玄米糶米子實陸稻ニ關スル調査ハ最近二ヶ年平均ナリ
1. 水稲ノ畦巾一尺株間五寸一本植ナリ
1. 陸稻ノ麥大豆ハ畦巾二尺條播リ從ツテ壠數ハ一尺間穗數ナリ
1. 玄米ノ粒形ハ1.8以上長1.6—1.8中1.6以下圓 (巾ヲ以テ長サヲ除シタル比)
1. 玄米ノ大小ハ30gr以上(千粒ニ付)最大粒27.—30gr大粒23.5—27gr中粒21.5—23.5gr小粒21.5g以下最小粒トセリ
1. 粒着ノ粗密ハ一寸間28粒以上密18—27粒中17粒以下粗トス
1. 稈毛色ハ成熟期ニ於テ褐黄ハ出穂期ニ白未熟期ニ橙黄同赤褐トアルハ出穂期ニ淡紅未熟期ニ紅同白ハ各期黄白色ト呈スルモノトス
1. 水稲(小針種三號)ハ大正十四年度モノニ於テ三本植ノ成法トス

甘 諸

	採種圃		採種圃		面積
	面積	生産種子量	面積	生産種子量	
水稲	一八九、三 ^町	六、七七、五 ^石	三、九二〇、三 ^町	三三〇、〇 ^石	一、一〇〇、〇 ^町
陸稲	四八、八	九七、五	三、五〇、〇	五、〇	一五〇、〇
大麥	一一四、〇	三、四三、〇	一一、四三六、〇		
小麥	一一四、〇	二、二八七、〇	一一、四三六、〇		
裸麥	三七	七三、〇	三三七、〇		

然して右の中縣原種を以て更新する爲に要する採種圃面積は左如し

然して右の中縣原種を以て更新する爲に要する採種圃面積は左如し

第六、本縣優良品種普及計劃

本縣水稻作付面積は六萬七千町、陸稻九千七百町、麥六萬六千町步、大豆二萬町、甘藷壹萬參千町であるが之に對して本縣獎勵品種（即縣原種）を以て水稻、陸稻七割、麥八割大豆、甘藷は原種の許す限り普及し其の残りの面積に對しては地方特有在來種の改良に依つて採種圃よりの種子を普及せしめ更に之が更新は三ヶ年更新を以てするのである。

縣優良品種普及計劃（縣原種及其の他の優良品種）

米.麥.大豆.甘藷原種特性表 (農事試驗場查調)

A		米.麥.大豆.甘藷原種特性表																				(農事試驗場查調)	
項目		出穗期	成熟期	草丈	莖數	稈細太	葉色	穗			芒		玄					米		反玄米收量	玄一升重	倒伏難易	
品種名								長	粒數	粒粗密	粒難易	多長少短	色	千粒重	粒形	大小	色	腹白	品質				
水	關十五號	8.31	10.25	3.050	9.6	細	淡	7.40	147	中	中	無一	一	18.29	長	最小	帶銀鈍白	少	上中	2.474	376	強	
	保村八號	8.24	10.13	3.830	7.4	中	濃	7.40	171	中	難	中中	赤褐	22.50	圓	小	帶褐鈍白	多	下上	2.495	388	中	
	近江五號	8.26	10.20	3.760	9.5	細	淡	7.10	130	中	中	極短	褐	18.90	長	最小	鈍白	稀	上下	2.422	388	中	
	無芒愛國	8.16	10.08	3.430	9.0	中	濃	6.80	142	中	難	極短	赤褐	22.14	圓	小	帶褐鈍白	多	下上	2.529	394	強	
	玉ノ井	8.31	10.23	3.880	10.0	中	中	7.30	144	中	難	無	一	20.30	中	中	鈍白	中	上中	2.763	389	最強	
	武藏	9.02	11.05	3.890	13.6	中	濃	6.90	108	中	難	稀短	白	21.10	中	中	鈍白	稀	上中	2.997	292	最強	
稻	撰一號	9.02	10.26	4.020	9.8	中	中	6.80	149	中	難	無一	一	18.97	中	最小	暗鈍白	少	中中	2.227	375	中	
	太郎兵衛	8.20	10.04	3.830	7.4	中	中	7.30	186	中	中	無一	一	18.17	中	最小	蠟白	一	上下	1.916	372	弱	
	小針	8.26	10.23	3.455	14.22			6.35												2.036	388	弱強	
陸	浦三	8.16	10.14	3.300	33.00	中	中	7.00	130	中	中	極短	白	24.82	長	中	鈍白	中	中中	1.710	365	中	
	美濃糯	8.20	10.20	3.590	34.00	太	濃	6.90	101	中	難	稀短	白	25.04	長	中	蠟白	一	中上	1.646	368	中	
	大畑	8.17	10.15	3.310	35.60	太	濃	7.20	125	中	中	中中	白	25.39	長	中	鈍白	多	中下	2.123	370	中	
	凱旋糯	8.12	10.01	3.330	34.90	太	濃	6.60	86	粗	中	稀短	白	26.63	長	中	蠟白	一	中上	1.519	369	中	
B		麥																					
項目		出穗期	成熟期	草丈	莖數	稈細太	葉色	穗			子					實					倒伏難易		
品種名								長	小穗數	型	粒難易	千粒重	重量	色	內容	品質	反當	收量	一升重	一升	粒數		
大	關一號	4.24	6.01	2.67	53.6	中	濃	1.67	26.4	密六條	中	40.65	白	•	上下	4.038	312	30667	強				
	虎ノ一	5.02	6.05	3.25	54.0	中	濃	1.81	28.4	密六條	中	37.09	白	•	中中	4.148	285	34773	中				
	三崎一	4.26	6.03	3.28	62.8	中	中	2.33	29.6	密六條	中	45.37	白	•	中上	3.843	281	30333	中				
	備前早生	4.29	6.08	2.91	55.0	中太	濃	1.86	29.0	密六條	中	37.00	淡青	•	中上	4.230	298	29900	強				
	紅梅	4.22	6.02	2.91	61.8	太	濃	2.17	28.6	六條	中	39.68	白	•	上下	2.806	370	32330	中				
小	赤達摩	4.30	6.13	2.72	64.3	中	濃	3.44	17.1	錐狀	稍易	36.92	赤	粉狀	中中	2.328	352	37752	強				
	尾島早生	5.01	6.14	3.03	78.0	太	濃	2.64	17.5	軍配狀	中	35.78	赤	粉狀	上下	2.191	361	37700	強				
	白達摩	4.29	6.12	2.22	60.3	細	中	2.85	17.9	錐狀	稍易	30.49	赤	半粉狀	中中	2.190	370	47331	強				
C		大豆																					
項目		開花期	成熟期	莖長	一株枝數	一株莢數	子					實					備考						
品種名							千粒重	重量	大小	色	品質	反當	收量	一升重	一粒合數								
鬼	裸一號	7.17	9.16	1.54	5.0	65	137.20	中	淡黃白	上	1.447	360	956										
	千成生娘	7.16	9.16	1.66	4.5	60	134.20	中	淡黃白	上	1.447	358	984										
	鈴成	7.19	9.15	1.47	4.1	58	91.80	小	黃白	中	1.316	364	1299										
	尾花	7.07	9.15	1.50	3.2	38	102.10	中	白	上	1.285	359	1072										
D		甘藷																					
項目		莖		葉			薯										四ヶ年平均反當收量		用途				
品種名		色	長短	形	色	脈	柄	形狀	皮色	肉色	水分少	肉質	食良味否	貯難藏易	莖葉重量	塊根重量	用途						
紅	赤	淡赤	長	長心臟形	淡紅	紅	淡紅	長紡錘形	濃紅	黃	少	粉狀	良	難	355,500	530,420	蒸食用						
太	白	綠	短	心臟形	綠	淡綠	淡綠	長紡錘形灣曲アリ	鮮紅	白	中	粘狀	中	易	375,600	629,120	澱粉切干及自家食用						
花	魁	紫	長	山字形	淡紫	紫	淡紫	短紡錘形	紫紅	純白	中	粘狀	中	易	607,000	859,540	同上						

水 稻 百二十二町五反、

大麥 九十一町五反

陸稻 十町三反、

小麥 九十一町五反

裸麥 三町

大豆 三十三町

甘諸五町

即、水稻採種圃一反歩より三石五斗五升の種子生産、農家は一反歩當、三升の種子を用ふるが陸稻採種圃は二石の生産にて三升宛用ひ、大麥は二石六斗、小麥一石五斗、裸麥一石七斗大豆七斗、甘藷三百貫諸量の生産にして農家所要種子は大麥三升、小裸麥二升、大豆三升、甘藷十五貫を以てす。

從來本縣は大正八年迄は原種を縣設採種圃にて増殖して一般町村採種圃に配付したのであるが其の結果は良好でなく時代は直接町村採種圃に原種を要するので遂に原種圃を大擴張すると共に前記の方針のもとに進みつゝあり更に町村採種圃は共同採種の觀念のもとに農事組合採種圃を獎勵す逐年採種圃の面積増大して遂に大正十五年度よりは麥原種圃の擴張を計り大正十六年度には三ヶ年更新の面積を實現する豫定である此の際本縣原種の特性の大要を記するに如左。

尙之が實際にあたりては各々適否はある故に所内郡市農會又は農事試験場の試作の結果に基き判定して貰ひ度い。

第七、實行組合採種の効果

前述の如く本縣に於ては永年の研讃と多大の費用設備を以て優良なる品種の育成種子の増殖を圖り縣下全般に亘り普及せしめ其効果をして愈々大ならしめむとして農家の小團體即實行組合なる組合採種を奨励するものである、幸にして農事組合は逐年増加し之が生産的施設として何れも採種圖を經營するもの益々増加し種子の利用完全に行はれつゝあるは最も良傾向なるも尙未だ農事組合の設置あるに不拘町村、町村農會に於て採種圖を經營をなし爲に實績舉らざるもの幾分ある、勿論農事組合無き町村に於ては採種に關し申合をなし漸時農家の團體的訓練を體得せしめ一面採種の恩恵を味はしめつゝ農事組合を築く一種の階梯となす如きは最も機宜を得たる處置であるも又町村農會經營採種圖も暫定的には必要である事は勿論である。

今組合採種が優良品種普及上最も有効なる理田を列舉し見るに。

- 一、採種圖は設備管理上二、三十戸農家に要する種子を目的とするを便宜とし。
- 農事組合は之に該當すること。
- 二、配付原種が少くても最も有効に利用すること。
- 組合員各自の希望種子量に依つて採種圖は作られ従つて生産種子は一般栽培用として全量が配付され普及徹底的に行はる。

三、種子の更新が速に行はること。

相互に理解ある農家のこと故原種の配付を受けての採種圖生産種子は毎年農家單位に計劃通り毎年更新と三ヶ年更新と理想的に行はれる。

四、混種の憂なく優秀なる種子を得ること。

農家が所要の數品種を自ら採種すれば如何に嚴重に實施するも多少は混種の憂がある、然るに組合にて一人一品種として分擔にて行なふので混種の憂なく、更に自分採種に比する時は極めて手数を省き得る更に責任大なるを以て出穂等の如きは注意して拔株を行ひ益々純正を保持する。

五、採種に關する觀念を向上せしむること。

各自が責任以て採種圖を擔任するのであるから播種に關する觀念を涵養することが出來て品種改良事業に及ぼす効果は甚だ多い。

六、數品種採種するの繁雜を免ること。

各自分擔に依つて各農家は所要品種の採種の手数を省き得ること。

七、採種事業共同的なる結果共同的訓練をなすと共に勞力節約多大なること。

第八、採種圖經營法

採種圖經營に當つては自家採種圖と稱して各自己の所要種子を圃場の一部をも採種するのと

農家の共同採種圃との二通りあるが前に述べた通り後者の經營方法最も合理的であり然も之には農家二—三拾戸位は單位とする團體即農事組合を以て採種圃經營主體となすを得策と考へる、然し其の設置なき地方に於ては町村、町村農會或は採種のみを以て目的とする申合的のものにて行ふべきである。

採種圃を經營する農事組合は二十戸乃至三十戸位を標準とするを最も實行し便宜とする若し組合員の多數が町村農會の如きものにて經營する際は採種事業を數組に分ち各組に品種改良委員なるものを置き事業の一切の細い所迄の責任者を定めて置くを要す。

農事組合又は町村農會に於て採種圃を經營するに當りては先づ第一に採種圃なるものは優良品種普及上最も有効にして最捷經であることを一般農事者に會得せしむると共に其の性質を充分徹底せしむるを要す同時に之が實施計劃を經營主體に於て建つるを要す。即、

町村又は組合區域單位の採種圃經營の作物の種類採種圃面積面積の更新方法品種の選擇、經營方法及之が經理方法等につき整然たる計劃を樹て各農事組合及町村農會の行ふべき事業の範圍即部署を決定して全員一致協力の一に當るを要す今各項につき述ぶるに。

一、經營法

實行組合たる農事組合經營を立前となすが故に之につき方法を記す。即、

第一は、各組合員が特別の事情ある者を除き會員にて採種圃を交代に擔當する事。

第二は、組合中の熱心なるものに委託して永年之の者をして擔當せしむる事。

第三は、組合自體に於て經營して作業等總て共同にする事の三種類ありて一利一害は必ず伴ふ故今其の得失につき論ずると。

第一、平等分擔採種圃經營

一、組合員が幾年かの間に悉く採種圃を受け持つ故採種事業に對する觀念は一般に徹底する故種子利用上にも便であるし負擔も公平である。

二、耕種其の他採種の爲め特殊の管理は不熟練の結果不充分になり勝で良好なる種子の獲得には支障を來し易い。

第二、委託採種圃經營

一、精農家多くは委託され永年之に當る關係上採種に對しては特殊の技能を有し安じて組合採種の目的を達し得る。

二、特殊の農家に限つて採種圃を經營する爲一般組合員は採種の觀念乏しく兎角種子利用に不徹底に陥り易く且つ負擔も不公平である。

第三、共同採種圃經營

一、最も合理的であるが採種圃の如き作物の培養にして周到なる管理を要するものに於ては生育兎角不平均又は不成績になり易い事は學校園等に往々見る所である。

二、各自の共同故種子利用には最も理想的である。
之を要するに共同經營は悉く不適當にして僅に或る種の作業例へば混種又は稗拔作業の如き

多くの監視を要する作業のみ許すべきで其の他は委託又は平等分擔を以て良好と考へる、地方の事情に鑑み熟考を要する。

二、採種圃の品種

品種の撰定は最も慎重を要し一朝之を誤りし結果採種につきて一般農家の不信任を招ける例は擧げて數ふるに暇はない之が要件は。

イ、組合員一般の最も要望するもの。

ロ、組合内にて最も多く栽培さるゝ品種又は系統なること。

ハ、本縣獎勵品種にして縣より原種の交付を得らるゝもの。

ニ、地方に最も適するものにして品種生育要件等良好にして多收、且つ將來有望又は現在最も必要とするもの。

以上の要件につき當事者は極めて熟考を要す爲めに、組合内品種分布調査、組合總會等にて一般意嚮の取纏め、専門技術者の所見、地方最寄の品種試験成績考查、從來の代表品種との比較等の方法を要する、斯くして決定せるものも尙一時に多數の品種撰定に徒らに農家を迷はし延いては作業を複雑して生産品の不統一を誘き易き故大體二三種に限定する様な方針が必要である。

三、採種圃の面積

採種圃の面積は地方に依り一定せず縣の獎勵規程にては一ヶ所五畝歩以上となつて居り餘り

に狭少なるは管理、採種上不適當である、さりとて一反以上に亘る事は田(畑)の數筆に亘る場合とあり又必要以上に採種をなすの恐れがあるので縣は大體五畝歩以上としたので地方の事情に依り五畝歩以上一反歩以下を適度と考へる之れ以上を要する時は場所又は擔當者を分けるのが良いと思ふ尙栽培面積三十町に對し大體一反歩位が良い。(詳細は縣の計劃參照)

四、生産種子の分配

採種圃生産種子は分擔者に於て乾燥調製を充分にして貯藏し置き適當の時期を豫め撰定して撰種、病害豫防を行ふのである、然して之等の作業は一般に比し時期又は場所を異にして行ふは混種を防に有効であり従つて通常一般作に先ち行はれ撰種其の他種子の豫措は配付後農家が共同又は持ち寄り行ふ場合もあるが惹る擔當者の手にある間に一定の監督のもとに經營主體の費用を以て行はれるを良いと思ふ。

1. 時期

收穫後一月以内に行ふを良いとす即水陸稻十一月(又は十二月)麥七月、大豆九月(十月)位の時にして但し甘藷は貯藏の關係上最も使量なる時期を伏込迄に考へるを要する、從來兎角各種子が播種前迄擔當者の所に保管の場合を耳にするが斯くては擔當者の迷惑は素より適當なる保管も困難更に種子需要者も所要の種子量を果して得らるゝや否やの不安を有し遂には從來の種子を間に合はすの様な不振の固となる。

地方に依つて休日又は祭日を指定して年中行事にして置く所もある。今の流行の宣傳日を設け「種子配布デー」を決定するは有効である。

2. 場所

組合長宅、組合事務所、其他組合員の集合を便とする神社境内、學校庭、寺の如きを適當とす何れにしても配達は宜しくない。

3. 分配の方法

豫め計劃の際定めて置き一般組合員に充分會得し得る様にし。
未だ採種圃觀念の幼稚なる際は。

一 二割引容量(又は重量)交換し即種子を多く與ふる事。

時價より廉にすること。(金錢又は玄米)

翌年等量種子返還。

以上に依つて蒙る損失は組合又は農會等に於て補填の途を講じ擔當者の迷惑を掛けしめざる事。

相當採種觀念徹底せるも不充分なる際。

種子の等量(容量又は重量)交換。

時價配付。(時には粗の如きを玄米六分摺り位に換算して行ふ事あり)

採種觀念の發達せる際。

一 二割増交換、又は市價の一二割高にて金錢を以てする事。

兎角農家は金錢支出を忌むものであるので出来るならば面倒でも重量又は容量交

換を行ふべきである尙發達せる地方は申込多數にして之が配給に困難をなしつゝ、ある町村を數々見受くるが斯の如き時も何割とか惹る種苗相場に近い價格にて配給する事は事業の性質上面目くない。

此の時は惹る三ヶ年更新の實現の爲めに新に配付を受けるものに優先權を與ふるか、栽培法の改善を企圖して反當り所要種子を制限して薄蒔獎勵をなすかに出づべきである何れにしても此の境までは是非發達せしめたい。

4. 配付残りの種子及供給不足の種子

毎年の事でもあるので特に生育優秀な場合、又は一般農家の意嚮の變動等に依り種子の配付残り又は供給不足が出来る場合がある斯る時は可成早く其の數量を確め一應組合に申込の機會を與へ然る後に町村農會又は組合員外の農家の希望に應じて残りを無くするか、或は他の採種圃經營主體より不足の補を受けるを要す之が爲めには町村品種改良委員、又は技術者、農會の當事者を勞すを良いと思ふ。

以上の各項につき善所して計劃の實現に努力すべきであり之がためには縣より採種圃生産種に配付臺帳なるものがあつて配付に關する一際的主張に依つて其の經過の瞭然たるものを利用すべきだ。

五、經費及種子の利用普及方法

何事業たるを問はず多少の經費は止むを得ない本事業も擔當者に或る程度の補助又は謝禮的

のものを出す事。種子配付の補償(又は値引の負擔)。撰種又は病害豫防費。標示設備等相當の費用を要する之が爲めには事業開始前に經營主體に於て豫算を作り擔當者自身に迷惑のない様にする事。更に採種圃生産種子を最も有効に利用せしむるには經營主體の理事者は出来る丈配慮し特に配布掛たる品種改良委員を設定し配付に關する一般周知方法、種子申込取纏め、配付等一際を行はしめ尙採種圃所在地には標本を樹て更に耕種の梗概及種子申込方法等を記載し一般に周知せしむるを要す。

第、九 採種圃管理の上注意 (擔當者の注意)

採種圃經營上注意すべき事項一にして足らざるも其の特に注意すべき點を記すれば。

一、適當なる擔當者を得ること、出來得る限り技能人格共に卓絶せるものを撰出すると共に栽培手當の如き該町村の生産増進に對する根本的作業なれば出來得る限り優遇すべく從て之に關聯せる技術者及監督者は特に擔當者を指導誘掖して地方に於ける模範農家たらしめる様心がけねばならん。

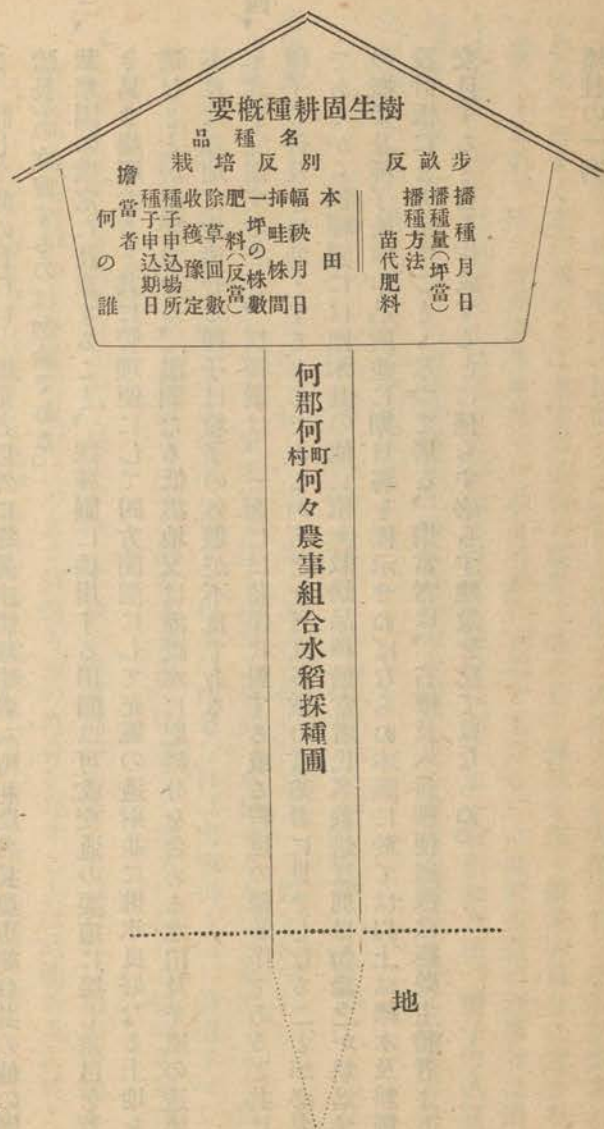
二、耕種設計打合會開催のこと、今日の如く多數の擔當者があることになれば從來の如く郡町村の技術者が一々擔當者私宅につきて耕種方法の打合をなすことは時間の上に於て成しがたいのである、さればとて之が耕種方法を郡技術者に於て決定強制することは、擔當者の豫定又は準備せる肥料及作業關係等に對し無理の點が出來るのみならず擔當者としても採種圃栽培法に對し未だ智能不充分的點も存すべきにより之を一堂に集め一面採種

圃經營上の注意及品種改良方法其の他に關する講話をなすと共に彼我の協定したる最善の方法により耕種方法を定むるは必要なる事項にして實に採種圃經營上の出發點である、而して此の會には、擔當者以外に經營主體理事者(町村農會長農事組合其の他の團體長)の立會するのは勿論である。

三、栽培圃の撰定に注意すること、採種圃に供用する田圃は可成交通の要道に接し衆目を惹き易き場所なると共に管理便にして四方開濶にして光風の透射並に排水良好なる土地を撰むことが必要である、濕潤なる低濕地又は灌漑水に肥料分を含める水田及光風の透過不良なる地に生産せる種子は粒子の外觀が不良である。

四、形式を完備すること、採種圃は、一面には該作に對する或る程度の模範作であると共に種子の普及を目的とするものであるから之を可成多數の當業者に見せしむることが必要であるから採種圃には標本其の他に依り栽培品種擔當者氏名栽培反別は勿論之が耕種法の概要及種子希望申込所並に期日等を標示せねばならぬ本縣に於ては以上は標本及耕種設計板により示すことゝなつて居る、擔當者は、右標及木耕種梗概板は經營主體者より交付すると自ら作成するとに係らず必らず建設を怠てはならぬ。

播種插秧中耕除草期其の他は設計通り行ひがたき場合が屢々あるのみならず之が生育管理及氣象の概要を記し置くことは種々の點に於て必要なれば擔當者は採種圃の經營に



五、關する簡單なる日誌を記すことゝしたい。

混變種生成の理並に之が處置法、品種の退化は異品種の混淆と自然雜種歸先變異及突然變異による半稔又は不稔株の發生増加に原因するのである異品種の機械的混淆の原因は甚だ多いから如何なる精農家にありても特別の採種圃なき限りは、優良なる純系種も兩三年にして數品種及異系統を混淆せる退化種となるのである今左に混種の原因を列記せんに。

い、前年脱粒種子の發芽、脱粒種子は其儘放任しとくと粳種は其の脱粒總數の八——九割の發芽を見るのである且て玉井の種藝部で行つた、試験によると大麥は反當り百八十本小麥は同く六百本の多數が脱粒種子より發生せしを認めたものである、既に斯の如く多數の恐るべき漏生苗、又脱粒種子の發生かあるとせば採種圃に供用する苗代及本圃撰擇に就ては大に注意せねばならぬ即ち苗代地は前秋稍や早目に稻の刈取を行ひ脱粒を少なからしめ落穂を丁寧に除去するは勿論脱粒種子の混淆を容易に認知し得る爲め前作に有芒種を作りし跡に無芒種の採種圃を設置し或は前作に小麥を作りし跡に大麥の採種圃を作る等努めて形態の著しく異なるものを以つてするの心がけが必要である。

ろ、自然雜種及歸先變異、米麥の如き禾本科植物は、自花受粉により交配を了するものなるを以て自然雜種の生成歩合は極めて少ないけれども尙ほ其一萬株に對し水稻大麥にありては五株小麥にありては十五株内外の自然雜種及稀には數株の歸先變異の株を發

生するものである。

は、半稔株の發生、氣候が不順灌漑水不良又は餘りに多肥に失する場合には突然變異によりて起る半稔又は不稔株の發生が多い米麥に於て半稔性又は不性稔株の發生は普通のことにして本縣の在來種中には之が歩合の甚だしいものがある、然れども農家の栽培する米麥は、全部が一本乃至一粒蒔でないから斯る株があつても比較的目につかないのである而して半稔及不稔株より生ぜし種子は必ず翌年も亦親と同じきか又は親より一層退化した不良株となるものである。

此の他機械的混種を起す上に於て常に注意すべき事は麥奴豫防鹽水選浸種の場合（種子は必ず二割膨脹する見込を以て緩き袋入のこと）肥料殊に堆厩肥使用の際（堆厩肥中には發芽する種子多し殊に麥の採種圃に之を使用すること）水苗代の播種の際（採種圃の苗代は必ず改良又は折衷苗代とし種子は半すりこみとなすこと）苗代灌排水苗代及本圃に鳥雀及蛙侵入の際苗取運搬苗配置の時補植苗をなすとき刈取架掛、脱粒、乾燥、調製用具及調製の際、種子容器と（古俵）種子發送の際等實に多いのである。

以上の如く作物は混變種生成退化の原因實に多きを以て如何に優良なる純系種を得るも之を普通の耕培法にありては兩三年にして退化するのは當然である、そこで之等退化の諸因を考究し之が機會を少なからしめ且つ萬一變混種を發生したる場合は直に拔取を行ふ等格段の注意により栽培を行ふが採種圃である、されば採種圃は之等の混變異種を容

易に發見し得る様、豫め一本乃至一粒作となすと共に苟も採種圃生産種子中には、以上の如き混種は勿論變種の一粒をも含まざる様心がけねばならぬかくするには生育中殊に出穂時より成熟期に當りては數回となく圃場の中に入り町寧に各株を調査し多少にても怪しいと認むるものは直に拔取り棄却するか又は他の圃に移すこととし決して株に印を付して其の儘放任することがあつてはならぬ、混變種に對しては其の形態と拔取月日拔取數を日誌に記載し其の特に變りしものは株を保存し置くことが必要である。

六、耕培上の心得、採種圃の耕培上注意すべき事項少からずと雖も其の一部は耕種標準に於て説く所あるを以て茲には各種採種圃を通じ心得べき諸點を示さんとす。

い、栽培品種縣郡の補助を得て設置する採種圃に栽培する品種は、麥大豆甘藷にありては縣原種に限るのである水陸稻にありては勿論縣原種を主とする次第なれど本作にありては往々特殊地方の存することなれば之等の地方に限り其の種子播下前に知事の認可を得れば承認品種として作ることが出来るのである。

ろ、施肥量、純系淘汰又は人工交配により育成せられたる縣原種を栽培する場合は從來唱導せられたるが如き採種圃は可成氣候寒冷地味瘠薄にして少肥栽培を旨とせざるべからず云々の必要なく倒伏乃至熟期を失せざる一定重量の種實を生産する範圍内に於て即ち多少增收目的を以て栽培することは差支ないのである（但し肥料の配合を能くし）從つて地肥沃にして耕土深き所に於ても作ることが出来る。

は、栽培品種数と其面積、一農家として本業以外に擔當する場合に於ける栽培品種数は、可成一品種五畝乃至一反歩内外を適當とする數品種を栽培することは混種其の他の誤を來すのみならず本業に制せられて收穫調製の時期を失する場合が出來易い。

に、補植及間引、採種圃は薄播を目的とするから水稻にありては豫備苗を、田の周圍の株間に植え置くべく大豆、麥にありては畑の一部に厚蒔部を作り置き缺損株、不良株鳥蟲、鼠害株等を植え更ふべし麥等に於て後日間引を行ふ豫定を以つて初め厚蒔を行ふもの往々存すれども之等の間引は事實に於ては容易に且つ完全に行ひ得べきものではない、但し陸稻は旱害の關係上多少厚蒔とし後日間引を行ふこと。

は、播種挿秧並に收穫の時期、陸稻、麥、大豆、甘藷にありては稍や早目に播種挿秧すべく水稻にありても苗代は播種期を稍や早め挿秧期日も地方特に螟蟲害の多からざる地なれば一般挿秧より兩三日早きに利あるを知る、要するに其の遲きに失するは良くない而して總ての種子は、其の過熟枯熟につれ發芽力を減するものなれば採種圃は稍や早目に收穫し必ず晴天五日間内外架に掛け種子の後熟作用を營ましめたる後調製することが必要である。

水稻採種圃耕培上特に注意すべき事項

い、苗代前年脫粒種を栽培せる田を避け品種毎に手畔又は小框を作りて灌排水、強風等の爲種子浮動して混動せざること、し且つ種子は半ばすりこみとなし漏生苗を抜き

去り（漏生種は一般のものより發芽伸長早）苗代跡には可成早稻を作る（早稻は脱粒するも年内に多くは發芽し終る）

ろ、苗代の播種量、水稻採種圃は必ず一本植となさるべからざるにより苗代の播種量

は可成り薄くし（坪一合五）強剛にして草丈一尺内外の二三本に分蘖せる苗を作る（坪一合五）

は、本田、灌排水便（排水良好なれば作業容易なるのみならず）光風の透過良好にして下水汚水等の流入せざること。

に、挿秧、適期を失せず可成淺植となし且つ長方形密植となすこと草丈高さ稻稈畦間は廣く株間を密にすべし普通は畦間一尺株間四寸乃至六寸なれど神力等にありては一尺二寸に五寸位とせねばならぬ。

麥採種圃の耕培上最も注意すべき事項

い、麥採種圃は畑地に設けること。

ろ、播種の方式、一粒蒔を本位とし事情により極めて薄き條播となすべく（大麥反二升以内小麥一升八合以内）

畦間は最低二尺二寸普通二尺五寸播溝は五寸乃至七寸とし此の中に二條にちどり蒔（粒と粒との間隔は三四寸位）

は、踏付土入、土質により異なるも輕鬆土にありては、發芽後三月初旬頃迄の間に於て少くも六十回普通の畑に於ても四―五位は必ず行ふ必要がある踏付を行はざる麥は必ず徒長するも分蘖少く收量を減するのである、但し踏付は畑地乾燥せる際は必ず草履、草鞋の類を履き行ふことが肝要である三月初旬に際し麥の急に伸發徒長する際

踏付を行はざれば後日遅分蘖をして完全の穂を出さぬものが澤山出来るのである。
土入は篩込鋤簾を以つて普通年内に浅く一回其三月中旬迄に三回乃至六回(土質輕鬆なる程多く行ふこと)
内外踏付後三―四日を経て行ふのである、採種圃の麥生育旺盛にして倒伏の恐ありと見れば四月末(走り穂の出し頃)割土法とて長さ六―八尺の先端を尖らし結束せる割竹を麥の株間に挿入して之を押し開きて麥を押し割り此の間に鍬にて充分に土を入るゝの法を行ふことが必要である此の割土を一度行ひ置けば大抵の麥は倒伏せぬものである、

に、麥作肥料の四大要素、麥の肥料としては堆肥と灰と過磷酸石灰と石灰との四要肥料を缺いてはならぬ人糞尿乃至硫酸アンモニヤ大豆粕、魚肥等窒素肥料の適量を要することは勿論である。

陸稻採種圃耕培上特に注意すべき點

い、陸稻の最も恐るゝ所は早魃の恐れである連年旱害甚だしき地にして水田の存する場合合は採種圃丈は水田状態で作るのがよいのである此の場合決して陸稻種子の性質即ち遺傳力は變らぬものである。

ろ、陸稻は連作を忌むものなれば可成連作せざるが必要である、萬已むを得ざるヶ所にありては、堆肥及灰の多量と少量の石灰を一般肥料以外に特に施す必要がある。は、陸稻は特に旱害を恐れるものなれば粗糲堆肥の如きは之を種子の下に施す場合は充

分に深く施さねばならぬ近時堆肥を畦側に施すものが多くなつた大體肥料は少い場合に却て旱害が強い様である依つて相當量までは多い方が良好は旱害劇甚地に於ては陸稻と大豆とを交互畦に作るなども考究すべき問題である。

大豆採種圃耕培上注意すべき事項

い、播種量、本縣大豆作の缺點は播種量多き爲め大豆は充分に分枝することが出来ず爲に徒長又は短縮なる細少莖に終り収量を減するのである普通一反歩に對する播種量は大粒種三升小粒種は二升とし發芽後密生部を間引き疎隔の部へは補植を行ふことゝするのである。

ろ、大豆の如き莖科植物は根瘤菌により空中の遊離窒素を吸収するを以つて施肥の必要なしなご稱するものあれど充分なる大豆作をなすには如何なる土地にありても堆肥、過磷酸石灰、草木灰、石灰の少量は施さねばならぬ而して極めて瘠薄なる地にありては稀薄人糞尿又は魚肥の如き窒素質肥料の少量をも要する場合がある亦大豆は嫌地病として連作を忌むものであるが年々十四五貫目の草木灰を施せば此の嫌地病も大に輕減されるのである。

は、大豆穫收時は降雨多きを以つて黃熟期に達せば速かに收納し雨による品質の惡變を妨ぐことに注意すること。

甘藷採種圃耕培上注意すべき事項

い、種蒔は色澤、形状良好なるものを撰び苗床に伏せ込み後は發芽の状況を調べ芽の色或は莖葉の色澤形状、大小等に注意し異りたるものは除き畑へ植付後は成るべく莖葉の繁茂せざる中或は中耕、蔓返し、蔓引等を行ふに當り生育の状況を調べ苗床時代と同じ様に莖葉の色澤、形状、大小等に注意し異りたるものは除去に努むるのである。

收穫の際は最も混變種の判別容易なれば諸の色澤、形状、蒔付、状況等を詳細に調べ混變種は除き形状、色澤、蒔付良好なる收量多き然も病蟲害なき株を撰別し貯蔵するのである。

ろ、種蒔貯蔵の際は混種せざる様貯蔵溝は各品種を成るべく別々となし一貯蔵溝には一品種を貯蔵し或は識別し易き品種のみを合同貯蔵する等注意する他鼠害に注意せざれば混種を生ずるのみならず腐敗を招く恐れあり貯蔵の際諸に硫黄華を撒布することは之等の障害防止上の効がある。

は、採種圃の肥培法其當を得ざれば形態上に甚しき變化を生じ爲に劣悪なる形を示し一般の嗜好に適せざるものとなるを以て本畑植付距離施肥量、收穫期等に注意すると共に種蒔は貯蔵中乾燥に失せざる様成るべく溝式貯蔵に依ることゝしたい。

に、種蒔配付量は反當十五貫匁内外となし之が輸送には特に注意し損傷せざる様心がくらは勿論豫め苗床を準備せしめ置き其の上にて配付する方が安全である。

七、

收穫物の調製貯蔵、收穫は多少早目に行ふべく殊に麥大豆は雨に遇へば著しく色澤並に品質を損じ發芽力を害し甚だしきは立毛中發芽を催すにより機を失してはならぬ亦採種に供するものは他の品種と隣接しとる部分及圃の周圍二株通り位は自然雜種其の他の恐れあるにより刈残すべく尙圃中に於て病害倒伏等の爲め種子用として不良なる部分存せざるも除去するのである。

收穫を終れば品種別に架にかけ乾燥を行ひ特に調製中異品種の混せざる様尙調製用具も能く掃除して異品種の種子等の存せざることゝし調製終らば充分に乾燥を行はなくてはならぬ殊に麥類は乾燥不良なれば麥蛾穀象等の喰害を甚だしく受くるのみならず貯蔵中蒸熱を來して品質を損するのである而して乾燥中鶏其の他の爲異品種の混合し易きものなれば常に注意せねばならぬ。

種子の容器は可成新しき俵又は袋等を用ふべしと雖も都合上古物を用ひざるべからざる場合には能く内部を調べ用ふべし米俵及メリケン粉入の袋等は最も安全な譯である。種子の貯蔵所は冷涼にして能く乾燥せる鼠害なき庫又は納屋に貯へ決して平素燃火をなす室等に置いてはならぬ種子は過乾に陥ると發芽力を損するのである。

八、選種、昔時の選種法は主として種子の形態に主きを置れたから先づ米麥等の穂に對しては上端、中間下端穂の別を唱へ一穂中にても穂先穂中穂元により別あるものとなし穂の形により雄穂と雌穂とに分ち而して須らく種子は上端穂の雌穂より取り穂先三分又は

穂中のみを用ふる様せねばならぬなど云ひ擴めしも今日の進みたる研究よりせば以上の諸説は何等の根據なき處にして相當に充實せる種子にありては親穂子穂雄穂雌穂又は穗元穂中の別もないのである、亦我國古來より行はれとる、唐箕及篩遣は種子の形態選別上大切なる仕事なれども之等は何れも多少の缺點があつて完全とは稱し難いのである即ち唐箕選は種子の重い者のみを揃へるけれど重い中には小さくて重いものもあり大きくて重いものもあるから形が不揃である篩選は形はよく揃へ得るも重さを揃へることが出来ぬのである然るに比重選に比較的形と重さを併せ揃ふことが出来るから今日では進んだ方法として一般に行はれとる比重の大なる種子は、胚乳多きにより種子發芽後の後作用が良しい依つて種子用のものは先づ唐箕と篩選とにより能く選別し其の種子の比重輕きものにありては尙水選を行ふ程度とし米麥の如く比重大なるものに對しては唐箕及篩選を行ひたるものを更に比重選にかけるのである最も小麥裸麥は比重最も大にして普通の食鹽では如何に澤山用ふるとも食鹽の水に溶くる飽和度は小麥裸麥の比重より低いから選種が出来ないのである純粹の苦鹽汁の原液に於てやつと行ひ得る状態で中々に困難であるから普通小麥及裸麥に對して充分に唐箕によつて篩選を行ふに止めとる、今日比重選に用ふるものは食鹽苦鹽汁及固形苦鹽智利硝石硫酸アンモニヤ等である今左に比重選の濃度を示せば左の如し。

水稲	比重 一、〇八	水一斗に食鹽三升智利硝石五百匁内外
同有芒種	(ポーマー比重計にて)	硫酸アンモニヤ一貫二百匁
陸稻	比重 一、〇八	苦鹽汁四分水六分
水稲	比重 一、一三—一、一五	固形苦鹽は同比重迄水にとがす
麥		水一斗に食鹽四升智利硝石九〇〇匁
		硫酸アンモニヤ一貫二百匁
		固形苦鹽は同比重迄水にとがす

備考 食鹽の飽和度は比重一、二三(水一斗に食鹽二貫四百匁)苦鹽汁純粹のもの比重一、二五五固形苦鹽飽和度一、二七智利硝石極度一、四二(水一斗に)硫酸アンモニヤ極度一、二八(水一斗に)鹽化滿俺し極度一、三八(水一斗に)にして之以上濃厚なるものは出来ぬのである而して小麥裸麥の比重は一、二五を以つて適當とする。九、麥奴豫防今日最も汎く行はるゝものは冷水温湯浸法なれど近時風呂水浸も大に流行しとる、此の他多少行はれつゝある灰汁浸は或る程度迄麥奴豫防に効あるのめならず麥の班葉病豫防にも効あるので班葉病の發生多き地では奨導されとる今左に之等の諸法を記さん。

い、冷水温湯浸法種子袋又は吠に入れ多量の清水に七時間浸したる後取出し箆に移し水を切り豫め用意せる温め桶(華氏百二十度攝氏四十九度の温湯を盛りたるもの)内に入れ種子の温りたる頃之を取出し更に温め浸漬すること正式に五分間にして取出し直に多量の冷水を注ぎて種子を冷却せしめ其の儘播種するか或は蔭干として播種期迄貯ふること。

注意 冷水湯温浸法に用ふる寒暖計は正確なると、不良寒暖計は試験所蠶業取締所測候所學校其他に就き更正をなすこと、時間を正確に守ること、浸し桶の温度は時々多少冷ゆるを以つて別釜に熱湯を沸し置き時々注加して温度を調節すること。

ろ、風呂水浸漬、家人の浴後に於て少く温め華氏百十四五度となし此の中に袋又は以に入れたる種子を浸し蓋をして其の儘放置すること七乃至九時間にして取出し直に播種するか又は陰干として貯ふ。

は、灰汁浸し、清水八乃至九升に草木の混合灰五―六升を入れ此の中に麥種子を袋入其の他となし浸漬すること五―六日間(此の間毎日一回攪拌す)の後ち取り出し直に播種す。

備考 麥斑葉病に對しては種子を冷水に浸すこと五―七時間後ホームーの比重一度の石灰硫黄合劑(酸曹液なれば約三十倍に薄めたるもの)中に三時間浸漬後取出し清水にて洗ひ直に播種又は乾して貯ふ。

一〇、種子配付、採種圃の經營は生産種子の全量を部内農家に普く配付するのである、而して之の目的を達するには栽培品種が優良にして且つ地方に適當するは勿論農家の全般が自覺し進で之が配付を希望するに至らば何等の手段方法をも要せざれども部内農家の悉くが自覺することは容易の事でないから之に對しては當分各種の手段を講せねばならぬ

夫れには先。

い、品種改良の急務と利益とを知らしむること(講習講話揭示、宣傳印刷物等により)

ろ、採種圃の標示を充分に行ひ注目を促すこと。

は、栽培品種の特性を周知せしむること。

に、栽培圃の一部に地方在來種中最も優良なるものを作り之と比較を行ひ其の成績を發表すること。

ほ、出穂成熟期に於て部内當業者に採種圃の所在地を示し觀覽せしむること(部内週知方法に就ては小學校生徒)を利用し得れば此の上ない。

へ、種子配付は有償のこと、當業者の品種改良に關する思想甚だ幼稚のヶ所にありては無償配付に依り之を試作せしめて其の利を悟らしむる要あるべきも多少自覺するに至れば無償配付は却つて害多きを以て一部又は半償配付となし相當の程度に進めば時價又は重量交換法を取り更に進んでは時價及重量一―二割増の法によるがよい。

と、生産種子量決定せば種子の希望量を募る此の方法として最も効果あるものは幸ひ其の町村の小學校に農業教師あれば最も好都合であるが若し之なき場合には町村の農業技術員なり又は校長より或る學年以上の生徒に對し農會で良き種子を分るから別紙印刷物を父兄に見せ明後日迄に希望種子量を書いて申出でられたしと申し渡し生徒をして取纏めしむることは最も手數少くしてしかも最も効大なるものである面し

て右の印刷紙には簡単に種子の配付量及方法品種の特性希望申込期日並に申込所を記しとくのである此の他一面には區長伍長農事督勵員農會役員等に通知し部内に周知方依頼し部落に掲示板あれば之に告示しとく等の方法を取るのである。

ち、種子交換乃至配分は可成部落に出張して行ふことゝしたい役場及學校で行ふことゝなると、遠方の人は自然交換又購入せぬことゝなる、町村農會長乃至町村長より管内の各部落に數人の品種改良委員を囑託し採種圃生産種子の一定量を交換乃至賣買斡旋せば多少の慰勞手當を支給するの制も亦大いに力があるものである。

村内の神社及知名の佛閣に於て其の秋の祭事又は供養を機とし初穂米又は供養米として玄米一升を献納したるものに對しては豫め神前又は佛前に供し採種圃生産籾一升を分配する方法により敬神と品種改良とを併せて行ふなども亦一の方便である、尙出來得べくんば採種圃は交通の要路に沿ひ設置し標木及設計掲示板は勿論更に遠く望觀し得べき高旗などを建て傍に簡易なる掲示板に栽培品種の特性大要を記し種子申込箱などを裝置し置くなども良い。

種子が村内農家に對し如何なる状態に配付せられたるかを知ることとは之が分布上甚だ重要なのみならず配付を受けざるものに對する將來の勸誘指導上に必要なれば採種圃經營主任者は必ず種子配付臺帳を作成して置くことにしたい。

第一〇、採種圃の監督

擔當者其の當を得且つ採種圃の管理經營に對する智識と經驗とを重ね經營主體者種子の配付計畫宜しきを得ば監督指導の要少きも斯る域に達することは中々に難きを以て先づ普通の狀況にありては經營主體者に於て少くとも發芽、出穂成熟の三期は定期監査として行ふべく監督者にありては以上の三期の監督指導は勿論生育途中選種乃至麥奴豫防及種子配付狀況監督は必ず行ふ必要がある、但し農繁期に於ける指導監督は出來得る限り農家の迷惑せざる様努めて簡決要領を主とし擔當者をして時間を徒消しめてはならぬ、農閑期を利用し擔當者相集り郡内又は近郡に於ける優良採種圃を視察し或は採種圃生産子を一ヶ所に集めて種子調査會を開催するとか採種圃の共進會を開催する等は之が成績を舉る上に於て必要な事業の一つである。

第一一、原種の耕種標準

採種圃に栽培すべき各種作物の耕種方法は地勢、土質、地味及前作物の關係其他により各地夫々異なるべきものなれば之を一定することは難いのであるされば之が一々に就ては郡の耕種標準を基とし設計打合會に於て充分協調して決すべきである從て縣農事試驗場に於ける原種圃耕種標準の如きも玉井なり浦和に於ける優良原種生産上適當と認むる栽培法に過ぎざれば

其の悉くが一般採種圃の栽培上参考ならざれども亦以て之が一部の参考となるは勿論である
依て今左に之が耕種法の概要を記さんとす。

一、水稻原種圃

苗代

選種 種子は乾燥調製に注意し唐箕選をなし更に鹽水選を行ふ。

浸種 種子は豫め五晝夜間清水に浸漬す。

整地 稻刈取後丁寧な落穂落粒を拾ひ去り二月下旬に至り深さ二寸五分内外に一

番耕起をなし土塊を粉碎し同時に稻株雜草等を除去し四月下旬乃至五月初旬に三番耕起を行ひ然る後整地す。

播床 整地終れば灌水し一、二回代掻をなし泥土の沈定するを待ちて播床を作る。

播床は幅三尺六寸の短冊形とし床間に幅一尺二寸の踏切溝を設く。

播種及施肥 播種前一旦排水し置き能く均し床上こんやくの固き位の程度に締りたる

際種子を蒔き床面と平になる程度に摺り込み其上に肥料を施し更に砂を篩にて種籾のかくるゝ程度坪當約五升を撒布す而して肥料は菜種子油粕ア

ンモニヤ過磷酸石灰を混合施用し藁灰は播種後苗の五分乃至七分位に伸長したる時に用ゆ。

播種量 坪當一合。

播種期 五月上旬。

肥料 (坪當苗床施肥量)

菜種子油粕一〇〇〇 勿硫酸アンモニヤ二〇 勿強過磷酸石灰三〇 勿藁灰一五〇 勿。

管理

前記の如くして播種を了れば除々に灌水し日中は特に淺水とし發芽を促進せしめ三、四日後より晴天に限り十日位芽干を行ふ、但し踏切には水を湛へ床面を露出せしめ其後は淺く根水を灌水特に左の事項には注意施行す。

混變種の防除及除草

一、播種前は必ず床面を精査し漏生苗の除去に努むること。

一、種子の混入を防ぐため品種別系統別に各々木框を廻すこと。

一、發芽の著しく促進せるもの及遅れて發芽せるものは漏生苗と認め除去すること。

一、稗其他の雜草は數回適宜除去すること。

一、異狀を呈するもの若しくは混變種と認むべきものあらば直ちに除去すること。

一、病蟲鳥害の防除に努む。

本田

移植法

畦幅一尺八寸、株間三寸乃至四寸一本植。

本 田

前作物收穫後直ちに一番耕起をなし次に二番耕起の際反當糞百二十貫を鋤
 込たる後搔き均して整地を了す。

播種施肥

肥料(反當施用量)

堆肥二四〇貫 人糞尿八〇貫(半量元肥半量追肥) 強過磷酸石灰七貫 大

豆粕一四貫 藁灰一五貫 石灰二〇貫(三四年毎に施用す)

畦幅二尺二寸 播幅六寸(株間三寸一粒立)

十月下旬乃至十一月初旬。

反當二升。

十二月中旬 三月上旬 三月下旬 四月上旬の四回。

十二月下旬 一月下旬 二月上旬 三月中旬の四回。

十二月下旬 二月上旬 三月上旬 三回。

三月上旬 四月上旬 二回。

常に病蟲害等を防除し出穂頃より特に鳥害の豫防に努む。

防除

一、前年度大麥栽培地には小麥を小麥栽培地には大麥を栽培す。

一、混種は發見次第直ちに之を除去すること。

一、出穂後混變種を發見したる時は除去するは勿論其の周圍數株は之を廢

棄し種子用に供せざること。

一、混變種は其の特徵及員數を記載し置くこと。

一、變種其他著しく見込ありと認むるものを發見したる場合は特に之を保
 存し研究の資に供すること。

一、他品種若しくは累系統に接近せる數畦を特に番外として種子用に供せ
 ざること。

三、陸稻原種圃

種子乾燥調製に注意し唐箕選をなし更に鹽水選を行ふ。

概して冬作の間作となすものなれば播種當日畦間に作條を設け規定の肥料
 を施し極めて淺く被土鎮壓し然る後播種覆土す。(條播)

(反當施用量)

堆肥二〇〇貫 人糞尿八〇貫(四〇貫元肥 三〇貫追肥) 大豆粕九貫 強過磷酸石灰六貫

藁灰一〇貫。

五月中旬。

反當二升。

播種期

中耕除草
追肥

管理

病蟲鳥鼠害
の防除
混變種防除

備考 大正十一年度より陸稻原種栽培は水稻と同様なる栽培法を行ふ。

中耕三回 六月中下旬 七月中旬 七月下旬乃至八月上旬。

除草は三回共中耕前に行ふものなれど雜草の多少により適宜回數の増減あり追肥は第一回中耕前實施す。

第一回除草の際間引を行ふ。

天災を顧慮し之に遭遇せる時の應急策とし灌排水に便なる如く施設す。

水稻に準ず。

水稻に準ず。

四、大豆原種圃

豫め盆又は板上にて轉がし其豐圓なるものゝみを選別す。

概して麥類の間作となす故其畦間に鍬若しくは草削器に作條を作る。

前作物に依り施肥量を異にし播溝了れば施肥し直ちに下種覆土す。

(反當施肥料)

其一、堆肥 六〇、^計

強過磷酸石灰

四、五^計

藁灰

一五、^計

其二、

三〇、

四、五

一五、

右中其一肥料は前年陸稻作跡に其二は麥作跡に施すものとす。(全部基肥とす)

畦幅株間

播種期

播種量

中耕及除草

混變種防除

畦幅二尺 株間四寸 一粒播。

五月上中旬。

反當中粒種二升 小粒種一升五合。

六月中旬(麥刈取後) 七月上中旬(開花約一週間前)

除草は雜草の多少により時期を撰定適宜行ふ。

一、混變種は發見次第直ちに之を除去すること特に落葉期は其の特性識別し易き時期なれば之が防除に努む。

一、混變種は其の特徵及各員數を記載し置くこと。

一、變種其他著しく見込ありと認むるものを發見したる時は特に之を保存し研究の資に供すること。

一、他品種に接近せる數畦は特に之を番外とし種子用に供せざること。

五、甘藷耕種標準

1. 苗 床

い、苗床の構造、一月上、中旬頃より南面日當り良き排水佳良なる場所を撰び幅五、六尺長さ適宜の(本畑一反歩に對し凡そ一坪半を要す)區劃を定め地上約一尺五、六寸の杭を四、

五尺隔てに打ち込み其の杭に竹を架し藁稈類を以て五寸位の厚さに圍繞をなし其の周圍の内側は四、五寸深さに掘り下け苗床の準備をなし三月上旬頃に於て豫め濕氣を與へ置きたる落葉を主とし之れに少許の藁屑塵芥等を混じ三回位に分ち堅く踏込み（踏込材料乾燥せるときは下肥或は風呂水等を撒布しつゝ）厚さ一尺位となす其の上に米糠を坪二升の割に撒布し次ぎに藁屑半熟堆肥を二寸の厚さに踏み込み新鮮なる人糞尿を坪一斗の割に撒布し其の上に腐熟せる細末堆肥を三寸の厚さに入れ表面を均平にし菰の類を以て被ひおくのである。

ろ、種 藁、配熱物踏込後床温八十度位となり一様に發熱するを見れば種藁の伏込みをなす即ち形狀、色澤、良好にして中等大無傷、芽の部分淺きものを撰び首尾兩端を少許宛切斷し草木灰を塗り千鳥形に並列し其の距離は指頭を入るゝ位とし密接せざるを要す、種藁の量は一坪に對し拾貫匁を程度とす伏せ込み終れば細末堆肥を種藁の隠るゝ迄位に被ひ更に小麥稈を三寸位被ひ後床上に竹を架し菰を屋根形に被ひ置き雨露の浸入若しくは床温の放散を防ぐ床温は華氏八十度乃至八十五度（攝氏二十七度乃至三十度）を保つ様に力むるのである。

は、苗木の管理、床温七十五度以下なれば床面に二重或は三重に菰を被ひ床温を高むべく若し九十度以上に達すれば撒布せる小麥稈を掻き除き更に甚だしき時は床面の所々に穴を穿ち放熱に努め斯くして二週間内外を経過すれば發芽するに至る發芽するときには町寧に小麥稈を除去し發芽の整一を計り後十日位を経て發芽揃ひとなれば曇天の日を選び床上の菰を除去し藁簀を覆ひおき苗の稍丈夫になるに及んで初めて日光に直射せしむ以後降雨寒冷にあらざる日中は日光に直射せしめ夜間は菰を被ふ而して結霜の恐れなきに至れば夜間と雖も菰を除き外氣に觸れしめ苗の健全となる様努むるのである。

2. 苗

い、苗の良否、苗の良否は収量に至大なる關係を有す良き苗は其の太さ中様にして節數多く長さ八、九寸位にして葉數十枚乃至十二枚のものなり不良なる苗は節間長く莖細し、太莖のものゝ難も軟弱なるものは不良である既に五月十日頃に至れば第一回の苗を切り取る之れを一番苗と稱し以後數日隔てに順次切り取る一番苗、二番苗は地力劣れる地に挿し三番苗の如きは地力優れる畑に挿すを常とす。

ろ、苗の處置、苗は缺又は小刀の類にて種藁より約一寸上部にて細根の附着せざる程度に切り取り切口に木灰を着け三四日間日光の直射及空氣の流通烈しからざる物置きに貯藏するのである苗切除後直ちに挿苗するも苗にして強剛なる場合又は降雨後に於ては活着歩合収量に影響なきも軟弱なる苗を切除後直ちに挿すときは植傷みを生ずること甚しく爲めに収量に影響するものなるが故に可成り切除後三、四日間貯藏するを可とす。

は、挿苗の時期、麥類の畦間に挿苗するものなれば麥の成熟如何を考へて挿苗するのである、

普通五月中旬即ち小麥開花期を標準とし挿苗するを宜しとす即ち大麥は小麥畑に比し早く又瘠地は肥地に比し早くすべし一般に挿苗遅るゝに隨て收量を減するを以て五月中旬に終るを可とす挿苗の際に於ける天候は晴天を可とす。

に、挿苗法の適否、斜挿、船底挿、直挿、釣針等あるも何れも利害得失あり何れの挿方に依らず地際より五、六寸の蔓は必ず直立して伸ぶる様に挿すべく蔓は地上五、六寸の間に各節より分枝し能く太るを可とす從來當場に於ける試験の結果に依るに船底挿し收量最も多く諸の形狀も良好なるを以て最も良法なりと認む苗を挿すに盛土植と平植との二法あり。

盛土植に於いて直挿、船底挿、釣針挿、をなすに適し平植（普通の植方にして單に麥畦の陽面を淺く切る）は主として斜挿、又は直挿を行ふ、苗植付の深淺は諸の大小、收量等に關係し即ち三、四節を度とし地下に挿苗すべく深きに過れば小諸多く淺きに失せば大諸となり共に採種場に於て種諸用栽培に適せず。

3. 整地

い、距離、畦幅は二尺乃至二尺二寸とす甘藷は多く麥類の畦間に植ゆるを常とするが故に麥蒔きの際畦幅を定むるを要す株間は其の廣狹により諸の大小等に影響するを以て種諸用としては一尺二、三寸位最も適すると認む。

ろ、施肥及整地、東西畦とすれば麥最後の中耕を北より南に切りかけ植込むべき距離に施肥し南隣の畦の北側の土を麥株に接して削り取り肥料の上に被土をなし麥の南に植地を作るのである然れども多くの場合は畦幅二尺なれば狭き爲め斯くすること能はざるを以て施肥後削りかけたる土を兩手にて丘狀即ち小摺鉢を伏せたる形とし其の部分に挿苗するを可とす。

施肥は挿苗十日前に行ふを可なりとするも場合より施肥を行はずして盛土をなし挿苗し苗の活着後新葉一葉を生ずる頃（麥收穫前）低き部分に施肥せば敢て遅きことなきやうである。

4. 肥料

施肥量は地方の肥瘠により多少の相異を來すは勿論なれども亦前作即ち麥類の施肥により參酌するので之れが施用量割合如何は收量品質等に至大の關係がある單に三要素を多量に施用するも其の割に生産せらるゝものにあらず殊に窒素を多量に施すときは莖葉のみ繁茂し却て減收の傾きあり、猶種藷として適せざるを以て成る可く窒素分を節し反當り一貫五百匁内外とし磷酸一貫七百匁加里二貫五百匁内外を標準として施用するを得策なりとす尙甘藷は肥料の種類如何に依りても其の品質收量に及ばず影響至大なるを以て單に肥料要素の用量のみにより決定すべきものにあらず要するに其の地方に於て安價にして得易きものを配合し三要素の適量を施すに努むるのである、今當場原種圃に於て施用する肥料を示せば次の如くである。（反當）

肥料名	施用	量	窒	素	有	燐	三	酸	成	加	分	里
堆肥		110000		0.600				0.310				0.750
米種油		9000		0.450				0.180				0.120
灰糠粕肥		11000		0.420				0.720				0.291
計		130000		1.470				1.660				1.350
		11		1.470				1.660				2.510

以上肥料は可成施用一ヶ月前配合堆積し、おき腐熟せしめ施用するを得策とす。

5. 本畑の管理

い、中耕と除草、中耕は一、二回なるも麥刈取後直ちに行はずして稍遅れて行ひ一回にて可なり中耕に於て最も必要なるは苗の根本に餘り多くの土を寄せざるにあり若し根本に土を多く寄せるときは根際節より根を多く生じ蔓葉繁茂に過ぎ草出來の割合に收量少なし而して中耕一回とする場合は麥の株は掘起すことなく其の儘とし深く鋤を入る可く且白根を切らざる様注意するのである之れ時として早魃の害を受けること少なきことあり。

除草は中耕又は蔓返しの際随時行ふのである。
蔓返し、甘藷栽培上重要な作業にして蔓の各節より發根するを防ぎ又既に發根せるものは其の根を切り結局蔓の勢力を押へ繁茂を防ぐの目的に出す故に蔓返しの度數は蔓の伸長の具合により行ふのである即ち徒らに蔓返しの度數のみに拘泥するは不可にして宜しく蔓の繁茂に注意し大體二回にて可なるが如し。

は、蔓の引立、八月中、下旬に至れば蔓は縦横に繁茂し來るが爲め蔓返しを行ふ能はず故に蔓を引立て下層の葉を上部に現はし日光に當て地表面に於ける空氣の流通を良好ならしむるので蔓引立てを行ふときは各節より發生せる細根を切らるゝ爲め一時衰弱するを以て著しく繁茂せる場合は日中之れを行ひ然らざる場合は朝夕に行ふを可とす、斯くして九月末迄に二回位行へば良い。

6. 收穫
甘藷の收穫は葉の稍黄變せる時即ち十月下旬乃至十一月下旬に行ふを普通とし結霜前に收穫するを可なりと認む收穫は土地乾燥せる晴天の日に行ひ成る可く深掘りなすを要す收穫せしものは種株の選別をなし六乃至十株を束ね小束となし其の日の中に貯藏するのである。

7. 貯藏

貯藏法に種々あれども夫々特質を有するは勿論、地勢土質の關係地下水の高低等に依り其の何れかを採らざるべからざるも要は其の地方從來の經驗に鑑み貯藏中に於ける温度及濕度に注意し貯藏するので普通左の二法式に依るもの多ければ茲に其の概要を記して參考に供さんとするのである。

い、溝式貯藏

地下水高き土地又は下層に礫等を混する場所に於ては窖室を設け難きにより此の方法に依る

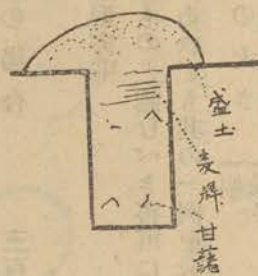
のである。

猶入間郡地方に於ては地層の關係上窖室に依るときは窖内温度上昇甚しく従て水分の不足を來し損傷し易きを以て窖室を有するものと雖も溝式に依るもの多く尙北足立郡の北部及其の他の諸郡に於ても此の方法に依るもの多いのである。

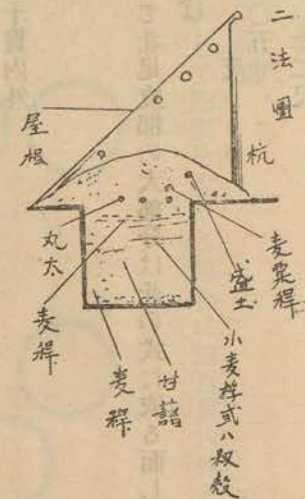
第一法 其の構造は幅一尺八寸—二尺深さ三尺五寸長さ適宜の溝を畑地の一部又は空地に掘り之れに溝の一方より束ねたる甘藷を直立し二側三重積みとして積み終れば縦に小麥稈を三寸厚さに被ひ其の上に稈の見へざる程度に薄く土を被ふ而して外氣寒冷となるに及び十一月下旬までに三回位に被土を行ひ地表面が平となる程度とし十二月月上旬に至れば土を山形に盛り三月月上旬に及び外氣の温度高まる時は盛土を除き地表に平になる位になすのである。

第二法 其の構造は幅二尺五寸乃至三尺深さ二尺五寸長さ適宜の溝を掘り底及兩側面には麥稈を敷き之れに溝の一方より束ねたる甘藷を直立し三側三重積み位となし積み終れば小麥稈少許を撒布し麥稈を一寸内外の厚さに置き上部には丸太を架し其の上に麥稈を二寸位の厚さに敷き土を山盛りとなし換氣孔へ溝の長さ四間に對し節拔竹筒或は徑三寸の土管一本宛兩端にを設け十二月月上旬に至れば北側に斜に屋根を設け霜除けとなし二月下旬に至り霜除け屋根を除く

第一法圖



第二法圖



ろ、窖 式 貯 藏

窖室を設くべき場所は乾燥の地にして相當窖内に濕氣あるを要す窖内に適當なる濕氣なきときは貯藏中諸の乾き過る恐れあるを以て土地により茶園、竹林或は雜木林内に設くるときに好結果を得るものなれば場所の撰定には注意を要す。

底土は堅實なる赤色粘土にして表土淺きを可とし地下水高きか砂礫層を混する場合ハ雨水湧出し又は窖室崩解するの恐れあるを以て不可なり窖内水分の多少は手指を以て窖側を厭するとき能く指跡を認めらるゝ程度を可とす要するに溝式に依る場合に比し手数を省略するの利あり。

第一法 半圓形窖室

北足立郡大和田町附近及入間郡に於て此の式に依るもの多し。

入口の大きさ
幅 二尺一寸
長さ 二尺九寸

深さ 十尺

窖の入口
幅 三尺五寸
高さ 四尺

窖室
底径 三尺五寸
高さ 九尺

窖室は二方に設くる場合多し一尺に對し積込量は

二層の場合 二百五十貫内外

三層の場合 三百五十貫内外

を程度とす。

第二法 隧道形窖室

最も進歩せるものと認むべき窖室にして北足立郡の大部分は此の式に依る而して隧道の長短大小は種々あれども其の一例を示せば

入口の大きさ
幅 二〇五尺
長さ 十一十二尺

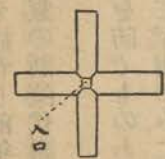
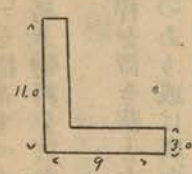
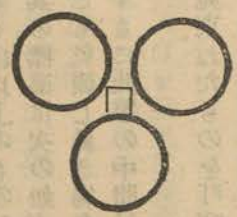
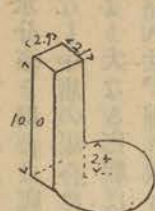
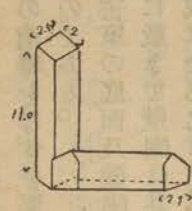
深さ 十一十二尺

隧道窖

幅 二尺七寸
高さ 三尺
長さ 九尺前後

一窖に對する積込量二層一〇〇貫内外にして四窖を設くる場合は四百貫内外となる。

第一法 半圓形窖室



は、窖室貯藏の準備及諸入法

第一、貯藏の準備、貯藏前窖室底面の蘆芥、諸屑及び表土を除き清潔にするのみに過ぎざるも完全を期せんとせば「フオルマリン」を撒布すべく尙少許の石灰を撒布し前年度より残りし病菌の消毒をなすを要す或は燃焼し易き物料を窖内にて燃焼し空氣の新陳代謝を計るも有効なるのである。

諸入前窖室の底面及壁側に麥稈又は粟稈を置き諸と土壤と接觸するを防ぐものあり、或は底面丈けに敷きて壁側は其の儘となすものあり或は底面には敷かずして壁側のみに立つるものあり、或は全部之れを用ひざるものありて區々一定せずと雖も多くは以上のものを用ひざるを常とす其の利害得失に關しては土地によりて一定し難く大體其の標準は次の如くである即ち窖室水分多き場合は底面壁側に麥稈又は粟稈を置くも可なれども乾燥し易き場合は直接諸入れをなし中庸の場合は底面又は壁側何れかに置くも可なり要するに此等の中間材料の差異有無により大なる影響はないのである。

第二、諸入法、堀り取りし窖は畑地にて選別を行ひ六—一〇株宛束ねたものを町嚙に運び數束宛手具（藁細工品）に入れ繩にて入口より吊し下げ一束宛窖の奥より積み重ねるものとす凡そ堀り取りたる〇は其の日の中に窖内に入るゝものとす積込の量は三層二尺—二尺五寸位とするのである。

に、貯藏後の管理

貯藏後二十日間内外は〇内空氣の流通を計るため降雨にあらざる限りは地表入口を開放し水

蒸氣を發散せしむ然して雨天の場合は雨水の入らざる様入口蓋の外に斜に藁稈類にて編みたる屋根を設け置くのである窖内の温度は窖の深さにより稍異なるべきものにして大體の標準を示せば次の如くである。

溝 式 華氏 六〇—六五度

窖深さ九尺同 五五—六〇度

同 十二尺同 五五度

外氣低溫となり窖内溫度華氏五〇—五五度位に降下せし場合は窖入口を藁又は藁把にて閉づるものとすその時期は十二月上旬頃にして夫れ迄は窖内より發散する水蒸氣の多少により藁又は藁把を以て加減し猶嚴寒の時期に至れば窖内溫度下降するを以て時として入口に更に藁を被ふ然れども窖内溫度高き場合にありては晴天溫暖なる日を見計ひ入口を開き溫度の加減を計る翌春三月上旬に至れば暖氣加はるに隨ひ入口の蓋は漸次剥ぎ取りて薄くすと雖も全然開放せざるを可とするのである。

採種圃補助規程

（大正十五年三月九日
埼玉縣告示第百十號）

第一條 主要農作物品種改良獎勵ノ爲本規程ニ依り毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ郡市農會ニ之ヲ交付ス

一、郡市農會ニ於テ町村、町村農會其ノ他農事團體經營ノ水陸稻、麥、大豆、甘藷、採種圃ニ對シ一反歩ニ付四圓以上補助金ヲ交付スルトキ

二、郡市農會ニ於ケル品種改良ニ關スル事業ニシテ知事ニ於テ適當ト認メタルトキ前項第一號ノ採種圃ハ一箇所五畝歩以上ニシテ縣立農事試驗場生産ノ原種若クハ知事ニ於テ適當ト認メタル品種ニシテ郡市農會生産ノ種子ニ限ルモノトス

第三條 補助金ハ左ノ標準ニ依リ交付ス

一、第二條第一項第一號ノ場合ハ郡市農會ノ補助額ノ三分ノ二以内

二、第二條第一項第二號ノ場合ハ其ノ經費ノ一部

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル郡市農會ハ左ノ事項ヲ具シ採種圃ノ場合ニハ様式第一號ノ調書添付ノ上甘藷ニ在リテハ三月十五日水陸稻、大豆ニ在リテハ五月末日麥ニ在リテハ十月末日迄ニ品種改良事業ノ場合ニハ四月末日迄ニ申請スヘシ

一、第二條第一項第一號ノ場合ニハ採種圃ニ依ル管内優良品種普及豫定面積補助金交付方法、經費豫算及採種圃設置獎勵規程

二、第二條第一項第二號ノ場合ニハ事業ノ目的施行方法及經費豫算

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル郡市農會ハ事業成績ヲ水陸稻、大豆、甘藷ニ在リテハ翌年五月二十日麥ニ在リテハ翌年十一月十五日迄ニ様式第二條ニ依リ品種改良事業ニ在リテハ事業終了後直ニ報告スヘシ

第六條 本規程ニ違反シタルトキ又ハ事業施行ノ方法不適當ト認ムルトキハ補助金ヲ交付セズ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ一部若ハ全部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

町 村 名	經 營 主 體 名	品 種 名	反 別	所 在 地	擔 當 者 住 所 氏 名	備 考

第二號ノ一、

經營主體名	品種名	反 別	精選種子量	配 量	付 人 數	經營主體別 種子配付方法

經營主體名	作物種類	勸業 市農會 金交付額	收入	支出
		其他	擔當手當	其他

郡市農會採種圃ハ前記様式ニ準スルコト

○埼玉縣立農事試驗場種苗配布規程
(埼玉縣告示七七號)
大正九年三月十六日

第一條 農產物ノ改良増加ヲ圖ル爲メ本規程ニ依リ種苗ヲ配付ス

第二條 種苗ハ左ノ二種トス

一、原種（原種圃ニ於テ生産セルモノ）

二、普通種苗(原種以外ノモノ)

原種ハ郡町村又ハ郡町村農會及其他ノ團體ニ限リ之ヲ配付ス

第三條 配付スヘキ種苗ハ其ノ都度之ヲ告示ス

普通種苗ニ關シテハ前項ニ依ラサルコトアルヘシ

第四條 種苗配付ノ方法ハ左ノ二種トス

一、特別配付（請求ヲ待タスシテ配付スルモノ）

二、請求配布（請求ニ依リ配布スルモノ）

第五條 種苗配付數量ハ左ノ通リトヌ

一、原種

種子類

一種ニ付二升以內トシ各種ヲ通シテ五升以內トス

根莖種子類

一種ニ付十五貫以內トシ各種ヲ通シテ三十貫以內トス

苗類

一種ニ付二千本以內トシ各種ヲ通シテ五千本以內トス

二、普通種苗

種子類

一種ニ付一升以內トシ各種ヲ通シテ五升以內トス

根莖種子類

一種ニ付十貫以内トシ各種ヲ通シテ十五貫以内トス

果樹苗木類

一種ニ付五十本以內トシ各種ヲ通シテ百本以內トス

其他ノ苗類

一種ニ付二百本以内トシ各種ヲ通シテ五百本以内トス

第六條 第二條第二項ノ團體ノ配付ニ限リ又ハ其他必要ト認メタルトキハ前條數量ノ勞阻

據ラサルコトアルヘシ

第七條 種苗ハ之ヲ無償配付ス但シ普通種苗ニ對シ第四條第二項ノ配付ヲ受ケントスルモノ

ニ限リ遞送實費ヲ徴收ス

第八條 種苗ノ配付ヲ受クントスルモノハ左記様式ニヨリ毎年第九條所定ノ期日迄ニ請求ス

ヲ農事試驗場長ニ差出スヘシ、但シ原種ニ就テハ郡長又ハ郡農會長ヲ經由スヘシ
第九條 種苗ノ請求期ハ左ノ如シ

一、稻、豆、甘藷及春蒔草花種

一月末日迄

二、麥、玉葱、秋蒔草花種

八月十五日迄

三、苗類(果樹)

十月末日迄

四、玉葱苗

十二月末日迄

第十條 種苗ノ配付ヲ受ケタルモノニ對シテハ時宜ニヨリ其成績ヲ徵收スルコトアルヘシ

附 則

第十一條 稻原種ノ請求期間ハ大正九年ニ限り三月末日トス
樣式

請 求 書

(用紙半紙)

一、種類、品種名、何々數量栽培面積

右採種用(試作用)トシテ栽培致度候間御配布相成度此段及請求候也

郡

町村大字

番地

氏 名 (名稱) 印

埼玉縣農事試驗場長宛

○埼玉縣立農事試驗場主要作物品種改良協議會規程

第一條 本規程ニ於テ主要作物トハ稻麥大豆、甘藷、馬鈴薯及蔬菜ヲ謂フ

第二條 主要作物ノ品種改良及之カ増殖ニ關シ協議ヲ遂ケ又ハ知事ノ諮問ニ應スル爲埼玉縣

立農事試驗場ニ協議員會ヲ設置ス

第三條 協議員ハ官公吏及郡ノ推薦シタル精農者中ニ就キ知事之ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條 協議員ノ囑託ハ三ヶ年ヲ以テ一期トス但シ知事ニ於テ特ニ任期ニ指定シタル者ハ此

ノ限リニ非ス

第五條 本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

會 長 一名 副會長 一名 幹 事 若干名 書 記 若干名

第六條 會長ハ內務部長、副會長ハ農務課長ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ協議員中ヨリ知事之ヲ命シ書記ハ會長之ヲ命ス

第七條 會長ハ會務ヲ統理シ會議ノ議長トナル副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ

代理ス幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ處理ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第八條 協議員ハ名譽職トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

協議スヘキ事項ハ左ノ如シ

イ、品種改良事業並ニ原種普及ニ關スル事業方針

- ロ、原種ノ適否及成績發表ノ件
- ハ、原種及承認原種ト地方在來種トノ比較栽培ニ關スル件
- ニ、地方特殊品種ノ簡易分系ニ關スル件
- ホ、本縣ニ適スル他府縣產有良品種ノ撰擇並ニ試作ニ關スル件
- ヘ、主要食糧農作物多收方法ニ關スル件
- ト、原種及承認原種ノ適當ナル耕種法ノ研究ニ關スル件
- チ、品種名稱並ニカ統一整理ニ關スル件
- リ、原種ノ普及狀況並ニ普及方法ニ關スル件
- ス、純系淘汰及人工交配ニヨリ育成スヘキ品種並ニ之カ研究方針ニ關スル件
- ル、原種ノ栽培面積配付數量配付方法ニ關スル件ヲ其他必要ナル事項



30068461

(川越市青山印行)